

# Cactus®

ユーザー マニュアル

ワイヤレス  
フラッシュ  
トランシーバー  
V6

# 目次

1. カクタス V6 のご紹介	4
2. 注意と警告	7
3. 主な仕様	8
4. 同梱物	9
5. 各部の名称	10
6. LCD パネル	12
7. 互換性	13
8. TTL パススルー	17
9. 使用を開始する	19
10. フラッシュ プロファイル: 選択、学習、コピー	27
11. フラッシュのトリガー	35
12. 遠隔手動出力調整	37

13. カメラ シャッターのリリース	47
14. 高度な使用法	52
15. V6 をカスタマイズする	54
16. カクタス ギアを取り付けて使用する	57
17. LED 信号ガイド	62
18. USB 接続	63
19. 別売りの付属品	65
20. トラブルシューティング	66
21. ご注意	72
22. 保証	75

# 1. カクタス V6 のご紹介

このたびはカクタス ワイヤレス フラッシュ トランシーバー V6 をお買い上げいただき誠にありがとうございます。カクタス V6 は、遠隔操作による出力調整でさまざまなブランドのフラッシュ搭載カメラを操作できる、多機能型ワイヤレス フラッシュ トランシーバーです。あらゆる角度、方向、距離に光を調整できます。可能性は無限大に広がります！

---

## 1.1

### 特殊な 機能

- 
1. これまでに発売されたキヤノン、ニコン、ペンタックス各社製のフラッシュで**ワイヤレスの手動出力調整**が可能です。
  2. アナログ TTL フラッシュで**フラッシュ プロファイルの学習**が可能です。
  3. **1/10、1/3、1/2、1EV の各ステップで出力レベルの完全な操作**が可能です。
  4. **L0 出力モード**では、フラッシュを発光する時間が非常に短くなります。
  5. **絶対出力モード**では、さまざまなフラッシュモデルの出力を同じ光量に合わせてベンチマーク評価します。
  6. キヤノン、ニコン、オリンパス、パナソニック、ペンタックス、富士フィルム各社製のカメラで **TTL パススルー**を単一のユニットから実現できます。

7. **内蔵光トリガー**により、プリ発光トリガーが可能です。
8. **グループ制御**により、最大 5 つのグループを制御できます。
9. **リレー モード**では、カメラ シャッターとフラッシュを同期させてトリガーします。
10. **遅延タイマー**は 1 ミリ秒～ 10 秒の範囲で設定できます。
11. オプションの電源とファームウェア更新のための**ミニ USB** ポートを搭載しています。

---

## 1.2

### カクタス V6のコア

フラッシュ モデルにはそれぞれ個別の出力レベル特性があります。弊社では V6 が出力レベルを精密に調整できるように、幅広いブランドから 30 以上の人気の高いフラッシュ モデルを選んでそのプロファイルを分析しました。この独自の機能により、撮影者はさまざまなフラッシュ モデルのフラッシュ出力を遠隔操作で調整することができます。異なるブランドのフラッシュモデルでも問題ありません！

プロファイル リストに記載されていないフラッシュ モデルの場合も、V6 はそのモデルのフラッシュ プロファイルを学習することでモデルと連動することが可能です。フラッシュ プロファイル学習プログラムが使用できるフラッシュの詳細については、セクション 7.1.3 を参照してください。

フラッシュ プロファイルが内蔵されたものか  
学習プログラムから入手したものかにかかわら  
ず、V6 に保存されたフラッシュ プロファイルに  
よって、フラッシュを操作して最大出力内であら  
ゆる出力レベルを作り出すことが可能です。さら  
に、フラッシュ メニューから使用できる操作以  
外可能です。

1. 細かい増分スケール V6 では、フラッシュの  
出力レベルをフラッシュ メニュー自体で調整  
可能なレベルよりもはるかに細かい増分レベ  
ルである1/10の EV ステップに調整すること  
ができます (EV ステップの設定については、  
セクション 12.3 を参照してください)。
2. 非常に短い発光時間 Lo 出力モードでは、V6  
で標準フラッシュ出力範囲を下回る非常に低  
い出力レベル (おおよそ 1/256 に等しい)  
で非常に短い時間フラッシュを発光させるこ  
とができます (Lo 出力を有効にする方法につ  
いては、セクション 12.4 を参照してくださ  
い)。
3. さまざまなフラッシュ モデルに対応した統一  
された出力レベル スケール:V6 では、お使い  
の環境のさまざまなフラッシュ モデルの光量  
出力をベンチマーク評価して、フラッシュ モ  
デルを同じ出力スケールで発光するように操  
作できます (絶対出力の調整については、セ  
クション 12.2 を参照してください)。

準備はよろしいでしょうか?ではこれから、V6 の  
機能を詳しく見ていきましょう!

## 2. 注意と警告

V6 を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に下記の安全に関する注意事項をお読みください。

1. 電池の交換や機器の接続は、機器（カクタスの各装置、フラッシュの各装置、カメラ等）の電源をすべて切ってから行ってください。電池を交換するときは陽極と陰極が正しいことを確認してください。電池を誤った方法で取り付けると爆発する危険があります。
2. 保管時はトランシーバーの電源を切り、電池を取り外してください。
3. 高温の環境（強い直射日光の下や、調理用コンロ・電子レンジの付近）で長期間にわたって製品を保管しないでください。
4. カクタス V6 を適切に保護されていない状態で絶対に液体の中に浸したり強い雨にさらしたりしないでください。
5. 可燃性のガスや蒸気がある場所で機器を操作しないでください。
6. 解体しないでください。
7. V6 を押しつぶしたり、ハンマーで叩く、落下させる、足で踏むなどの衝撃や力を加えたりしないでください。

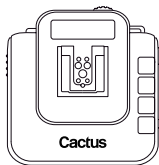
### 3. 主な仕様

- ・ 使用無線周波数:2.4 GHz
- ・ チャンネル数:16
- ・ グループ数:4
- ・ 最大 1/1,000 秒のシンクロ速度に対応（カメラのシンクロ速度制限も適用される）
- ・ 最大実効距離:100 メートル
- ・ 使用温度:-20°C ~ +50°C
- ・ カメラ電圧処理: 最大 6V
- ・ フラッシュ電圧処理: 最大 300V
- ・ 外形寸法:  
72mm（長さ）x 72mm（幅）x 42 mm（高さ）
- ・ 重量:68g
- ・ 電源出力:単三電池 2 個、3V、50mA、0.15W;  
ミニ USB 2.0、直流入力 5V、500mA ~1A
- ・ 電池の予想寿命:

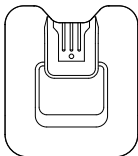
電池寿命 (時間)	アルカリ単三 電池 1000mAh		充電式ニッケル 水素単三電池 2500mAh	
	TX	RX	TX	RX
LCD バックライ ト オフ	40	21	67	34
LCD バックライ ト オン	25	17	36	25



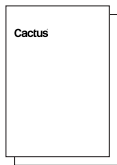
## 4. 同梱物



V6 トランシーバー

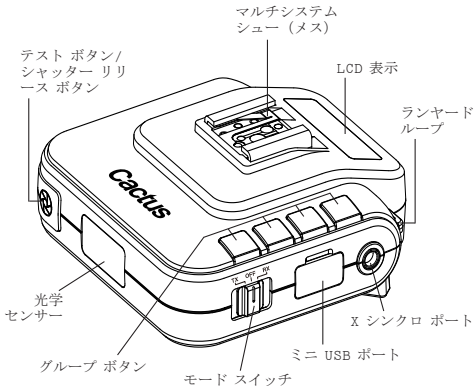


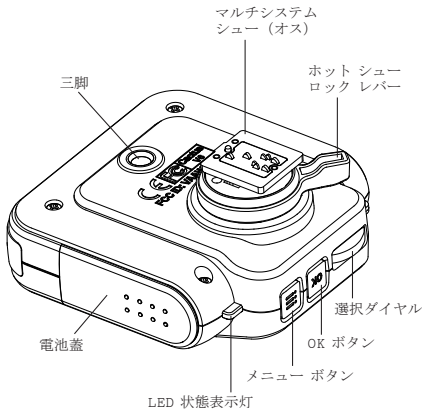
フラッシュ  
スタンド FS-2



アルバムと  
ユーザー マニュアル

## 5. 各部の名称

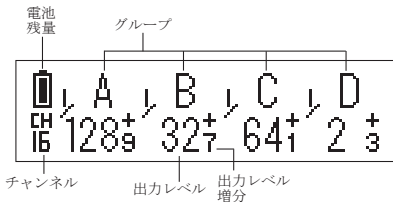




## 6. LCDパネル

### 6.1

TXモード



### 6.2

RXモード



## 7. 互換性

カクタス V6 はワイヤレス フラッシュ トリガーとワイヤレス リモート コントロールの両方の機能を備えています。携帯型フラッシュとスタジオ用ストロボ光のどちらもトリガーすることができ、また、主要なフラッシュ モデルのリモートコントロール機能にも対応しています。

---

### 7.1

---

フラッシュ  
とスタジオ用  
ストロボ

---

#### 7.1.1 カクタス RF60

カクタス V6 モジュールを内蔵したカクタス RF60 は、V6 TX による遠隔操作とトリガーが可能です（セクション16.1.1 を参照してください）。

---

#### 7.1.2 カクタス V6 にあらかじめ設定されているプロファイルに対応するフラッシュモデル

カクタス V6 では、以下の携帯型フラッシュ モデルを遠隔操作することができます。

フラッシュシステム	フラッシュモデル
キヤノン	カクタス AF45C、AF50C; キヤノン 320EX、430EX*、540EZ、 580EX*、600EX-RT; GODOX V860C; METZ 36AF-5、44AF-1、50AF-1、 52AF-1、58AF-1、58AF-2; NISSIN D1866 MARK II、MG8000; PHOTTIX STRATO; SIGMA EF-500 DG SUPER; YONGNUO YN568EX*;
ニコン	カクタス AF45N、AF50N; METZ 36AF-5、44AF-1、58AF-2; ニコン SB-24、SB-28、SB-600、 SB-700、SB-800、SB-900、SB-910; NISSIN D1700、D1866; SIGMA EF-500 DG SUPER;
ペンタックス	カクタス AF45P、AF50P; METZ 36AF-5、44AF-1、50AF-1、 58AF-2; ペンタックス AF 360FGZ、AF 540FGZ;

\* 異なるバージョンのモデル (580EX II、580EX等) で動作するプロファイル

### 7.1.3 アナログTTLモードを搭載したフラッシュモデル

カクタス V6 では、アナログ TTL モードを搭載した他のフラッシュモデルのプロファイル、すなわち TTL を使用したアナログ クエンチ信号を学習できます。フラッシュに TTL モードが搭載されているものの、TTL の前の頭文字 (キヤノンの E-TTL および E-TTL II、ニコンの i-TTL およ

び i-TTL BL、ペンタックスの P-TTL 等) がない場合は、カクタス V6 でフラッシュ プロファイルを学習して遠隔操作します。

---

#### 7.1.4 その他のフラッシュモデルとスタジオ用ストロボ

カクタス V6 では、上記以外のフラッシュ モデルはすべてホット シューから、スタジオ用ストロボは PC シンクロ オス ポート、3.5mm または 6.35mm ポートを使用した別売りケーブルからトリガーします (セクション 19 を参照してください)。これには高トリガー電圧の携帯型フラッシュ モデル、およびトリガー電圧が 300 V 以下のすべてのストロボ モデルが含まれます。カクタス V6 では、これらのフラッシュとストロボを遠隔操作で出力調整することはできません。

**注意:**

コネクタの陽極と陰極が逆に取り付けられているフラッシュまたはストロボは カクタス V6 と一緒に動作しません。

---

## 7.2

### カメラ

カクタス V6 は、(1) 標準 ISO ホット シューまたは (2) メス シンクロ ポート接続を搭載したほぼすべてのカメラで動作します。

V6 をワイヤレス シャッター リリースとして使用するには、特定のシャッター ケーブルが必要です。別売りの付属品の一覧は、セクション 19 を参照してください。

---

## 7.3

---

### フラッシュ トリガー

---

#### 7.3.1 カクタス V5 および LV5

カクタス V6 はワイヤレス フラッシュ トランシーバー V5 およびレーザー トリガー LV5 と互換性があります。詳細はセクション 16.2 を参照してください。

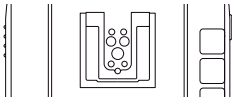
---

#### 7.3.2 その他のフラッシュトリガー

カクタス V6 は、カクタス V2、カクタス V2s、カクタス V4 を含む上記以外のフラッシュ トリガー モデルとは互換性がありません。



## 8. TTL パススルー



V6 トランシーバーは、TTL パススルーに対応したマルチシステム シューを搭載しています。


V6 は TTL 信号をワイヤレス伝送しませんが、送信機 (TX) を経由して TTL 信号をカメラからフラッシュへ、フラッシュからカメラへ送ります。

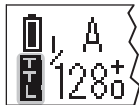
マルチシステム シューは、キヤノン、富士フィルム、ニコン、オリンパス、パナソニック、ペンタックス各社製のシステムによる TTL パススルーに対応しています。カメラとフラッシュ装置は必ず同じ TTL システムに属するものを使用してください。

TTL パススルーにより、TTL フラッシュはカメラのホット シューに直接接続した場合と同様の動作をします。V6 は、TTL フラッシュ システムが提供するすべての自動機能 (TTL 計測による自動フラッシュ出力、AF アシスト光、後幕シンクロ、


高速シンクロ/FPシャッター等)に対応しながら、ワイヤレスフラッシュの指揮官としての役割を果たします。

V6 TX で TTL パススルーを有効にするには、

 を 2 秒押し続けます。チャンネル表示灯があった左下の箇所に TTL パススルー表示灯が LCD で表示されます。



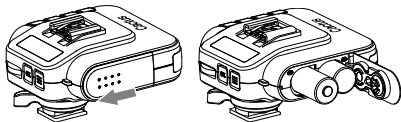
TTL パススルー モードでは、取り付けられているフラッシュの出力レベルを V6 TX から調整することはできません。

TTL パススルー モードを無効にするには、 を 2 秒押し続けます。TTL パススルー表示灯がチャンネル表示灯の LCD に替わります。

## 9. 使用を開始する

### 9.1

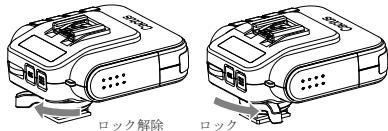
#### 電池の取付け



電池蓋を後方に押し、電池蓋を開けます。ラッチを開け、陽極と陰極を間違えないように単三電池 2 個を挿入します。電池蓋を手前に押し、電池蓋を閉じます。

### 9.2

#### カメラへの取付けとカメラからの取外し



V6 をカメラのホット シュー取付け部に取り付けるには:

1. V6 のロックレバーを左に回してマルチシステム シュー (オス) のロックを解除します。
2. V6 をカメラのホット シューの中にスライドさせます。
3. V6 のロックレバーを右に回してマルチシステ

- ム シュー (オス) をロックします。
4. V6 をカメラのホット シューから取り外す場合は、ロック レバーを左に回してマルチシステム シュー (オス) のロックを解除します。これ以外の方法で取り外すと、マルチシステム シュー (オス) が損傷する可能性があります。



**注記:**フラッシュをカメラのホット シューに取り付ける場合と同様に フラッシュをV6 に取り付けてください。フラッシュがマルチシステム シュー (メス) にしっかりとロックされていない場合は、フラッシュを半分だけロックした状態にし、ロック用ピンがピン穴に当たるまでフラッシュをマルチシステム シューから少しずつ後退させてみてください。その後、フラッシュを完全にロックして V6 に取り付けます。

---


### 9.3


#### ボタンと ダイヤル

---




V6 の操作盤には、さまざまな機能や設定メニューに素早くアクセスできるように、[メニュー (MENU)] ボタン 、[OK] ボタン 、および選択ダイヤルが備わっています。



[メニュー (MENU)] ボタンから設定メニューにアクセスします。メイン画面で、 を押すと設定

メニューが表示されます。メニューの任意の部分で、 を押すと設定メニューが終了します。

[メニュー (MENU)] ボタンにはこのほかに下記のような使用方法もあります。

- TX モードで、 を押し続けると TTL パススルー モードへの移行と終了を切り替えることができます (セクション 8 を参照してください)。
- TX モードで、 を押しながら選択ダイヤルを同時に回すと、V6 TX のマスター フラッシュの出力レベルを変更できます (セクション 12.1.1 を参照してください)。
- 絶対出力モード時の TX モードで、任意のグループ ボタンを  と一緒に同時に押すと、そのグループの EV オフセットを設定できます (セクション 12.2 を参照してください)。



[OK] ボタンには下記の 2 つの機能があります。


1. メニュー項目を入力して、設定メニューのオプションを確認できます。
2. TX のメイン画面からスワップ制御 (クイック調整モード/ズーム (カクタス) モード) を入ったり、戻ることができます (セクション 15.2 を参照してください)。



選択ダイヤルは 2 方向のダイヤルで、左または右に回すことによってさまざまな項目を簡単にスクロールできます。ダイヤルを使用して次のことができます。

1. 設定メニューで、メニュー項目やメニュー オプションにアクセスできます。
2. TX のメイン画面で、出力レベルを調整できます。

選択ダイヤルの方向はサブメニューで設定できません（セクション 15.1 を参照してください）。選択ダイヤルは時計回りまたは反時計回りのどちらにも回転方向を設定できます。

**選択ダイヤルには簡易の OK ボタンとして機能する押し込み式ボタンが内蔵されています。**設定メニューでオプションを確認する場合や、スワップ制御を始めたたり終了したりする場合は、 または押し込み式選択ダイヤルのどちらかを押します。

---

## 9.4

### 動作モードの選択







カクタス V6 は無線信号の送受信が可能なワイヤレス トランシーバーです。モード スイッチを正しい位置にスライドさせて、V6 トランシーバーを正しいモード（送信機は「TX」、受信機は「RX」）に設定します。これにより、トランシーバーの電源が自動的に入ります。

---

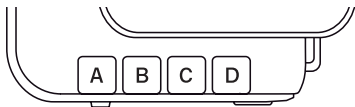
## 9.5

### チャンネルの設定

カクタス V6 トランシーバーは無線周波数を通して互いに通信します。16 のチャンネルが使用可能です。必ず V6 トランシーバーがすべて同じチャンネルに設定されていることを確認してください。

1. TX と RX の両方を同じチャンネルに設定するには、 を押します。LCD に <チャンネル (CHANNEL)> と表示され、既定のチャンネル番号が表示されます。 を押して選択ダイヤルを目的のチャンネル番号に回します。他のメニュー項目を設定するには  を押します。終了するには  を押します。
2. 選択したチャンネル番号が LCD 画面に表示されません。

## 9.6

グループ  
の設定と  
選択

V6 のグループ機能により、各 RX をグループ A、B、C、D のいずれかに割り当て、TX 装置から発光させるグループを選択できます。

1. すべての V6 トランシーバーを同じチャンネルに設定する必要があります。
2. 各 RX 装置をグループ A、B、C、D のいずれかに割り当てるには、グループ ボタンを 1 つ押します。それぞれの RX に割り当てることができるグループは 1 つだけです。選択したグループの LED がオンになります。
3. グループ ボタンを 1 つまたは複数押すことにより、TX に任意のグループの組み合わせを発光させることができます。A、B、C、D のグループを任意の組み合わせで発光させることができます。有効にしたグループの LED がオンになります。
4. 特定のグループの出力レベルを変更するには、有効にしたグループ ボタンを押し続けます。グループ ボタンを素早くもう一度押すと、グループの選択が解除されます。



5. V6 TX で有効にしたグループのグループ ボタンをもう一度押すと、グループがオフになります。オフ グループに設定された V6 RX 装置は発光しません。
6. **V6 では、電源をオフにしたときに TX と RX の両方のグループ選択が記憶されます。**次回 V6 の電源を入れたときに、保存された設定で V6 が起動します。

---





## 9.7

### メニュー 内の移動

---

V6 には設定可能なメニュー オプションが数多くあります。

メニュー オプションを変更するには:

1.  を押して最初のメニュー項目を表示します。
2. ダイヤルを右または左に回して各メニュー項目をスクロールします。
3.  または押し込み式ボタンを 1 回押してメニュー項目にアクセスします。
4. ダイヤルを右または左に回してメニュー項目の各オプションをスクロールします。
5.  または押し込み式ボタンを 1 回押してオプションを選択します。メニュー項目の設定がすぐに変更されます。
6.  を押すとメイン画面に戻ります。ダイヤルを右または左に回すと次の項目に順番に進みます。

メニュー項目	オプション	対象モード	
		TX	RX
チャンネル(CHANNEL)	1-16	√	√
光学スレーブ (OPTICAL SLAVE)	オフ(OFF) S1 初回フラッシュ (S1 FIRST FLASH) S2 メイン フラッシュ (S2 MAIN FLASH)	√	√
リレー(RELAY)	オフ(OFF) オン(ON)	√	√
遅延(DELAY)	オフ(OFF) 設定(SET)	√	√
Lo 出力(LO POWER)	オフ(OFF) オン(ON)	√	
出力モード (POWER MODE)	相対(RELATIVE) 絶対(ABSOLUTE)	√	
EV ステップ(EV STEP)	1/10 1/3 1/2	√	
フラッシュのセット アップ (FLASH SETUP)	スキップ(SKIP) プロフィールをコピー (COPY PROFILE) 学習を開始 (START LEARNING)		√
フラッシュ セットアップ をコピー (COPY FLASH SETUP)	スキップ(SKIP) 開始(START)	√	
プロフィールを選択 (CHOOSE PROFILE)	手動(MANUAL) キヤノン(CANON) ニコン(NIKON) ペンタックス(PENTAX) 学習済み(LEARNED)	√	√
サブメニュー (SUB-MENU)	LCD バックライト (LCD BACKLIGHT) スリープ(SLEEP) ダイヤル方向 (DIAL DIRECTION) スワップ制御 (SWAP CONTROL) 動作範囲 (WORKING RANGE) 工場出荷時設定にリセッ ト(FACTORY RESET)	√	√

## 10. フラッシュプロファイル: 選択、学習、およびコピー




V6 トランシーバーでは、フラッシュを操作してフラッシュ プロファイルから特定の出力で発光させることができます。正しいフラッシュ プロファイルを得る方法は 3 つあります。

1. V6 にあらかじめ設定されているフラッシュ プロファイルからフラッシュ プロファイルを選択します。
2. V6 を使ってカスタムのフラッシュ プロファイルを学習します。
3. 学習したプロファイルを別の V6 からコピーします。

### 10.1

#### V6 からフラッシュ プロファイルを選択する

あらかじめ設定されたプロファイルのリストから、フラッシュに使用するそれぞれのV6 RXについて適切なフラッシュ プロファイルを選択します。

1. RX モードで V6 の電源を入れます。
2.  を押し、選択ダイアルを回して〈プロファイルを選択〉(〈CHOOSE PROFILE〉)に合わせます。 を押します。
3. LCD にお使いのフラッシュ システム (〈キヤノン〉(〈CANON〉)等) が表示されるまで選択ダイアルを回します。 を押します。

4. LCD にお使いのフラッシュ モデル (〈580EX\*〉等) が表示されるまで選択ダイヤルを回します。[OK] を押します。
5. フラッシュ装置を V6 に接続します。フラッシュを TTL モードに切り替えます。フラッシュが遠隔操作できる状態になります。選択したフラッシュ プロファイルは、別のフラッシュ プロファイルを選択するまで適用されます。

カメラに搭載したマスター フラッシュを V6 TX から発光させて調整する場合は、TX モードで上記の 2~4 のステップを実行してマスター フラッシュに適切なフラッシュ プロファイルを選択してください。

---

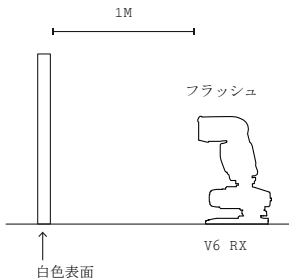
## 10.2






### カスタムの フラッシュ プロファイ ルの学習

---

お使いのフラッシュ モデルがあらかじめ設定されたプロファイル リストに含まれていないが、アナログ TTL に対応している場合は、V6 を使ってフラッシュ プロファイルを学習します。お使いのフラッシュが V6 のフラッシュ プロファイル学習プログラムに適用できることを確認してください (セクション 7.1.3 を参照してください)。

1. RX モードで V6 のうちの 1 つの電源を入れます。
2. フラッシュを V6 マルチシステム シュー (メス) に設置します。暗所環境で、V6 とフラッシュを光沢のない白色表面から 1 メートル離れて面した状態で配置します。



3.  を押し、選択ダイヤルを回して〈フラッシュのセットアップ〉(〈FLASH SETUP〉)に合わせます。 を押します。
4. 選択ダイヤルを回して〈学習を開始〉(〈START LEARNING〉)に合わせます。もう一度  を押します。
5. 正しいフラッシュ システムを選択します。  
 を押します。
6. 〈実行〉(〈GO〉)のオプションが選択されている状態で LCD に〈フラッシュを TTL モードに設定〉(〈SET FLASH TO TTL MODE〉)と表示されます。
7. フラッシュを **TTL モード**と**最大ズーム レベル**に設定します。 を押します。

8. V6 がフラッシュの試験発光を 2 回行い、フラッシュがフラッシュ学習プログラムに適用できるかどうか判定します。フラッシュが適格でない場合、LCD 画面に〈フラッシュ学習に対応していません〉(〈FLASH LEARNING NOT SUPPORTED〉)と表示されます。

ヒント:フラッシュと反射面との距離が短すぎる、または長すぎる可能性があります。ステップ 2 の説明にしたがってフラッシュの設置場所を変えます。また、ステップ 7 で正しいフラッシュ システムを選択したことを確認します。

9. フラッシュが学習プログラムに適格な場合、LCD 画面に〈最大 GN を設定〉(〈SET MAX GN〉)および既定番号の 45 が表示されます。LCD 画面にフラッシュの最大ガイドナンバー (メートル単位) が表示されるまで選択ダイヤルを回します。OK を押します。
10. 〈実行〉(〈GO〉)のオプションがハイライトされた状態で LCD 画面に〈手動 1/2 を設定〉(〈SET MANUAL 1/2〉)と表示されます。フラッシュを 1/2 出力で手動モードに切り替え、OK を押します。V6 が学習をしながらフラッシュを数回トリガーします。その間、LCD 画面に〈1/2 を学習〉(〈LEARNING 1/2〉)と表示されます。

11. プログラムが 1/2 出力の学習を終了すると、LCD 画面に〈手動 1/4 を設定〉(〈SET MANUAL 1/4〉)と表示されます。プログラムが 1/128 出力までの一連の学習を終了するまで、この手順が反復されます。
12. フラッシュが特定の出力レベルに対応していない場合は、ダイヤルを回して〈スキップ〉(〈SKIP〉)に合わせ、**OK** を押します。プログラムがその出力レベルの学習をスキップして次のレベルに進みます。学習した出力レベルの数が多いほど学習したプロファイルの正確さが高まります。
13. V6 が〈手動 1/128 を設定〉(〈SET MANUAL 1/128〉)のステップでフラッシュの発光を終了すると、LCD 画面に〈TTL モードに戻る〉(〈BACK TO TTL MODE〉)と表示されます。フラッシュ モードを TTL に変更し、**OK** を押します。V6 がさまざまな出力レベルを微調整し、約 2~3分間何回もフラッシュを発光させます。
14. 学習が終了すると、LCD 画面に〈フラッシュプロファイル名〉(〈FLASH PROFILE NAME〉)と表示されます。プロファイル名を 1~6 の文字または数字で入力します。他のカスタムプロファイルで使用されていない一意のプロファイル名を入力してください。選択ダイヤルを回して A~Z および 0~9 から選択し、選択したすべての文字で **OK** を押します。

15. LCD 画面に〈プロフィールを保存しました〉 (〈PROFILE SAVED〉) と表示されます。フラッシュ プロファイル学習が完了しました。

保存したフラッシュ プロファイルをプロフィール リストから選択するには、セクション 10.1 を参照してください。カスタム プロファイルはすべて〈プロフィールを選択〉 (〈CHOOSE PROFILE〉) のメニューにあるフラッシュ システムの〈学習済み〉 (〈LEARNED〉) の項目として保存されます。

**それぞれのV6 には学習プログラムから最大 15 のカスタム フラッシュ プロファイルを保存できます。光出力の理論値からの偏差は 0.2 未満にしてください。**

**注記:**

1. フラッシュ プロファイルは、セクション 7.1.3 に記載する要件を満たしていても、すべてのフラッシュ プロファイルを V6 で学習できるわけではありません。
2. フラッシュ プロファイル学習を開始する場合は、必ず新品の電池をフラッシュに取り付けてください。





---

**10.3**

---

**カスタム  
のフラッシュ  
プロフ  
ファイルのコ  
ピー**

1 つの V6 で複数のフラッシュ プロファイルの学習を完了したら、学習したカスタム フラッシュ プロファイルをすべて別の V6 ユニットにコピーできます。

1. すべての V6 ユニットを同じチャンネルに設定します。
2. 別の V6 ユニットにコピーする学習済みの全フラッシュ プロファイルを含む V6 発信元ユニットを選びます。TX モードで V6 発信元ユニットの電源を入れます。[>] を押し、LCD に <フラッシュ セットアップをコピー> (<COPY FLASH SETUP>) と表示されるまで選択ダイヤルを回します。[OK] を押し、選択ダイヤルを回して <開始> (<START>) に合わせます。もう一度 [OK] を押します。<実行> (<GO>) のオプションが表示された状態で LCD 画面に <RX をプロファイルのコピーに設定> (<SET RX TO COPY PROFILE>) と表示されます。
3. RX モードで V6 送信先ユニットの電源を入れます。[>] を押し、選択ダイヤルを回して <フラッシュのセットアップ> (<FLASH SETUP>) に合わせます。[OK] を押し、ダイヤルを回して <プロファイルをコピー> (<COPY PROFILE>) に合わせます。[OK] を押します。LCD 画面に <TX を待機中> (<WAITING FOR TX>) と表示されます。

4. V6 発信元ユニットで、**OK** を押して〈実行〉 (〈GO〉) を確認します。
5. ユニットがフラッシュ プロファイルのコピーを開始します。
6. フラッシュ プロファイルがすべて V6 送信先ユニットにコピーされると、発信元の V6 ユニットに〈送信を終了しました〉 (〈FINISHED SENDING〉) と表示され、送信先の V6 ユニットの LCD 画面に〈コピーを終了しました〉 (〈FINISHED COPYING〉) と表示されます。メニューから別の場所へ移動できます。



**注記:**

発信元 V6 と送信先 V6 に同一のフラッシュ プロファイルが見つかった場合、そのフラッシュ プロファイルはコピーされません。同じプロファイル名を持つ同一でないプロファイルの場合、プロファイルはコピーされますが、新しく追加されたプロファイル名の最後の文字が変更されます。

## 11. フラッシュのトリガー

---

さまざまなグループのフラッシュ装置を操作して発光させるには:

1. V6 トランシーバーを正しいモード（送信機は「TX」、受信機は「RX」）に設定します。これにより、トランシーバーの電源が自動的に入ります（セクション 9.4 を参照してください）。
2. TX と RX の両方を同じチャンネルに設定します（セクション 9.5 を参照してください）。
3. 各 RX 装置を A、B、C、D のグループのいずれかに割り当て、TX でそのグループを有効にします（セクション 9.6 を参照してください）。
4. V6 RX を携帯型フラッシュまたはスタジオ用ストロボに接続します。
5. TX で、 を完全に押下します。TX と RX の両方の状態 LED が同時に緑点滅するはずですが、携帯型フラッシュまたはスタジオ用ストロボが同時に発光します。
6. 特定のグループを試験発光させるには、グループ ボタンと  を完全にかつ同時に押します。

7. TX をカメラのホット シューに取り付けます。カメラにホット シューがない場合は、別売りの PC シンクロ ケーブル (CA-200) を使って TX をカメラに接続します。
8. カメラのシャッター リリース ボタンを押します。各 RX のフラッシュがワイヤレスかつ同期して発光します。

ヒント:V6 トランシーバーでは、遠隔出力調整の有無にかかわらず携帯型フラッシュをトリガーできます。出力レベルを調整せずにスレーブ フラッシュをワイヤレスにトリガーする場合は、〈プロフィールを選択〉(〈CHOOSE PROFILE〉)メニューで〈手動〉(〈MANUAL〉)のフラッシュ システムを選択します。

## 12. 遠隔手動出力調整

また、V6 はフラッシュのトリガーとは別に、フラッシュの手動出力を操作できます。各 RX で、各フラッシュを接続するための適切なフラッシュプロファイルを選択します。V6 TX でフラッシュを操作して 1/128 から 1/1 の全出力まで発光させることができます。V6 では、ユーザーがフラッシュの出力を最も便利な方法で操作できるように 2 つの出力定義が提供されます。

フラッシュ装置の出力を遠隔操作するには：

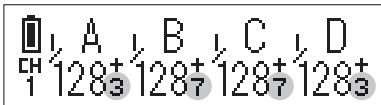
1. フラッシュ装置を V6 に接続します。
2. **TTL モード**でフラッシュ装置の電源を入れます。RX モードで V6 の電源を入れます。
3. 各 V6 について**正しいフラッシュプロファイル**を選択します。

---

### 12.1

#### 相対出力

V6 TX では、一般のフラッシュプロファイルと同様、遠隔フラッシュの出力レベルを、全出力は 1/1、半分の出力は 1/2 というように、相対出力モードで全出力に対する比率で示します。TX モードで V6 の電源を入れると、LCD に有効にしたすべてのグループの相対出力レベルが表示されます。




なお、小さな 1桁の数字は大きな出力レベルの間の増分を示します。

### 12.1.1 単一グループの出力調整

**特定のスレーブグループ**の出力レベルを調整する方法は 2 つあります。

1. 選択したグループの出力レベルが LCD でハイライトされるまでグループ ボタンを押し続けます。選択ダイヤルを回して目的の出力レベルに合わせます。グループ ボタンを短く押ししてグループの選択を終了します。
2. ショートカット: グループ ボタンを押しながら選択ダイヤルを同時に回します。調整が終了したら、グループ ボタンを離します。

また、V6 TX マルチシステム シュー (メス) に取り付けられた**マスターフラッシュ**の出力レベルも調整できます。

1. TTL パススルー モードが有効になっていないことを確認します（セクション 8 を参照してください）。
2.  を押しながら選択ダイヤルを同時に回して、マスター フラッシュの出力レベルを変更します。

---

### 12.1.2 複数のグループの出力調整

有効なすべてのグループの出力レベルを調整するには、そのまま選択ダイヤルを左または右に回して目的の出力レベルに合わせます。

**注記:** マスター フラッシュの出力レベルは複数のグループの調整による影響を受けません。

---

### 12.1.3 クイック出力調整モード

ダイヤルを左または右に 1 「クリック」回すと、選択したグループの出力レベルが 1 ステップ上昇または低下します。V6 の工場出荷時設定での EV ステップは 1/3 EV です。EV ステップは、〈EV ステップ〉 (〈EV STEP〉) メニューで 1/2、1/3、または 1/10 に設定できます（セクション 12.3 を参照してください）。

上記よりも広い間隔で出力レベルを素早く変更したい場合は、クイック出力調整モードを使用します。

1. TX モードのV6のメイン画面で、**OK** を 1 回押すとクイック出力調整モードに移行します。
2. このモードで、ダイヤルをクリックするたびに、出力レベルが最初の値をそれぞれ終点および始点として1EV 上昇または低下します。例えば、グループの出力レベルが  $1/16 + 3$  の場合、選択ダイヤルを 1 クリック回すと、出力レベルが  $1/8 + 3$  に上昇するか、または  $1/32 + 3$  に低下します。
3. クイック変更が終了したら、**OK** をもう一度押してクイック出力調整モードを終了します。それ以降は、ダイヤルを 1 クリック回すたびに、〈EV ステップ〉メニューで行った設定にしたがって出力レベルが上昇または低下します。

---

## 12.2

### 絶対出力

---

さまざまな最大出力を持つ複数のフラッシュの光出力を調整する場合は、「1/4」や「1/8」などの一般的な出力比はあまり役に立たない可能性があります。ある強力なフラッシュモデルの「1/8」の出力が、別の弱いフラッシュモデルの「1/4」の出力よりも高いということもあり得ます。このため、V6 は EV の数値を使ってフラッシュモデ



ルの最大出力から独立に絶対光量を指定できる  
「絶対出力」モードを搭載しています。

下記のようにガイドナンバー単位の出力レベル  
が EV 単位の絶対出力方式にスケール変更されて  
います。




絶対光量 (EV 単位)	ガイドナンバー (メートル単位)			
	+0.0	+0.3	+0.5	+0.7
17	58.0	64.4	69.0	73.9
16	41.0	45.5	48.8	52.3
15	29.0	32.2	34.5	36.9
14	20.5	22.7	24.4	26.1
13	14.5	16.1	17.2	18.5
12	10.3	11.4	12.2	13.0
11	7.2	8.0	8.6	9.2
10	5.1	5.7	6.1	6.6
9	3.6	4.0	4.3	4.6
8	2.6	2.8	3.0	3.2
7	1.8	2.0	2.1	2.3
6	1.3	1.4	1.5	1.6

絶対出力モードをセットアップする場合、V6 TX は同じチャンネルにある各 RX 装置で選択されているフラッシュ モデルを収集し、収集したフラッシュ モデルを統一された光量スケールにスケール変更します。下記の例に、モデル特有の相対出力スケールを絶対出力スケールに変換する方法を示します。

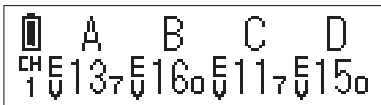
絶対光量スケール (EV 単位)	全出力ガイド ナンバーがそれぞれ異なる 4 つのフラッシュの相対光量スケール			
	フラッシュ A	フラッシュ B	フラッシュ C	フラッシュ D
18				
17		GN58		
16		1/2		GN41
15	GN29	1/4		1/2
14	1/2	1/8	GN21	1/4
13	1/4	1/16	1/2	1/8
12	1/8	1/32	1/4	1/16
<b>11</b>	<b>1/16</b>	<b>1/64</b>	<b>1/8</b>	<b>1/32</b>
10	1/32	1/128	1/16	1/64
9	1/64		1/32	1/128
8	1/128		1/64	
7			1/128	
6				





すべてのフラッシュを絶対出力モードで 11 EV に設定した場合（上記の表のイタリック体の行を参照）、**フラッシュはフラッシュ自体の相対出力スケールでの差にかかわらず、すべて同じ光量を放射します。**例えば、11 EV にした場合、フラッシュ A は 1/16 の出力に等しい光量を照射し、フラッシュ C は 1/8 の出力に等しい光量を照射します。

V6 システムを絶対出力モードに変更するには：

1. RX モードで遠隔 V6 の電源を入れます。それぞれの V6 RX について正しいフラッシュ プロファイルを選択します。
2. TX モードで指揮官としての役割を果たす V6 の電源を入れます。この V6 が RX 装置と同じチャンネルに属していることを確認してください。  を押します。選択ダイヤルを回して〈出力モード〉 (〈POWER MODE〉) に合わせ、 を押します。選択ダイヤルを回して〈絶対 (セットアップ) 〉 (〈ABSOLUTE (SETUP)〉) に合わせ、 を押して確認します。
3. V6 TX が V6 RX 装置からフラッシュ プロファイルを収集し、絶対出力レベル方式をセットアップします。セットアップが終了すると、LCD 表示が再びメイン画面に戻り、4 つのグループの絶対光量が表示されます。

4. 相対出力モードの場合と同様に出力レベルを調整します（セクション 12.1 を参照してください）。小数点の前にあるそれぞれの数字は 1 EV を、その後ろにある小さい数字は 1/10 EV を表します。



5. 有効になっているすべてのグループを同じ出力レベルに設定します。スレーブを試験発光させて、各スレーブから同じフラッシュ出力が生み出されるか判定します。
6. 初期のセットアップが十分に正確でない場合は、各グループの絶対出力スケールをオフセットすることができます。任意のグループ ボタンと  を同時に押すと、そのグループのオフセット モードに移行します。
- 例えば、グループ A のフラッシュ出力が同じ絶対出力レベルにある他のグループよりも若干強い場合は、 と  を同時に押しします。LCD 画面に <グループ A オフセット> (<GROUP A OFFSET>) と表示されます。選択ダイヤルを左または右に回して、出力スケールを -1EV から 1EV に調整します。 を押してメイン画面に戻ります。

**注記:** V6 TX の電源を切ると、絶対出力のセットアップは保存されません。V6 TX は相対出力モードで再起動します。




---

## 12.3

---

### EV ステップ

V6 TX の操作盤には、EV ステップとして1/10 EV、1/3 EV、1/2 EV の 3 つのオプションが備わっています。設定は相対出力モードと絶対出力モードの両方に適用されます。

EV ステップを調整するには、TX モードで V6 の電源を入れて  を押します。選択ダイヤルを回して <EV ステップ> (<EV STEP>) に合わせます。 を押し、ダイヤルを回して目的の増分レベル (1/10、1/3、または 1/2) に合わせます。 を押して確認します。

**注記:**

1. 電源を切ると選択した EV ステップが記憶され、再び電源を入れたときにその EV ステップが適用されます。
2. クイック出力調整モード (セクション 12.1.3 を参照) では、設定した EV ステップは 1EV ずつのステップ変化に切り替わります。

---





**12.4**

---

**Lo 出力**

Lo 出力レベルの場合、V6 でトリガーしたフラッシュの相対出力はおおよそ 1/256 に等しくなります。1/128 と 1/256 の出力の差はフラッシュメーターではほとんど検出されませんが、発光期間が非常に短いため、稲光よりも速い瞬間を静止画に撮影することができ、高速写真撮影に理想的です。

Lo 出力を有効にするには:

1. TX モードで V6 の電源を入れ、 を押しします。選択ダイヤルを回して <Lo 出力> (<Lo POWER>) に合わせ、 を押しします。選択ダイヤルを回して <オン> (<ON>) に合わせ、 を押しします。
2. Lo 出力が有効になると、Lo 出力は相対出力モードでは 1/128 の出力よりも 1 ステップ低い出力レベルで、絶対出力モードでは各グループの最低出力よりも 1 ステップ低い出力レベルで <Lo> として表示されます。
3. Lo 出力を無効にするには、ステップ 1 を実行して Lo 出力メニューに入ります。選択ダイヤルを回して <オフ> (<OFF>) に合わせ、 を押しします。

## 13. カメラシャッターリリース

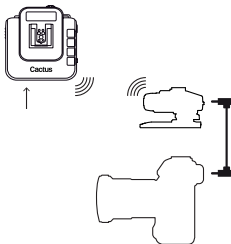
**注記:**

この機能を使用するには、トランシーバーとカメラを接続するためのシャッター リリース ケーブルを別途購入して使用する必要があります。シャッター リリース ケーブルは V6 トランシーバーの包装箱に同梱されていません。



---

### 13.1

#### 基本セット アップ






カクタス V6 をワイヤレス シャッター リリースとして使用するには、カクタス V6 トランシーバーが最低 2 つ必要です。

1. 適切なシャッター リリース ケーブルを使って V6 RX をカメラに接続します。
2. V6 TX と RX の両方を同じチャンネルに設定します。V6 TX で、V6 RX に割り当てられたグループを有効にします。
3. TX の  を半押しにして、オート フォーカスを試します。TX と RX の両方にある状態 LED がオレンジ色に変わり、オート フォーカスの状態になったことを示します。TX の  を完全に押下してシャッター リリースを行います。両方のトランシーバーにある状態 LED が緑色に変わり、シャッター リリースができる状態になったことを示します。

---

## 13.2

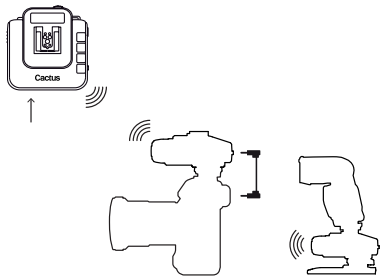
### バルブモード

1. カメラをバルブに設定します。
2. V6 TX の  を完全に押下します。V6 TX と V6 RX の状態 LED が最初に緑色に変わり、約 2 秒後に消えます。LCD 表示に <バルブモード オン> (<BULB MODE ON>) と表示されます。
3. V6 RX の  を離します。これでカメラのシャッターが継続して開いた状態になります。
4. カメラのシャッターを閉じるには、V6 TX の  を完全に押下し、再び離します。TX と RX の両方にある緑色の状態 LED が同時に点滅します。











## 13.3

リレーモード:カメラシャッター+フラッシュ



V6 のリレーモードは、ワイヤレスシャッターリリースとフラッシュトリガーシステムを連動するための経済的な解決策です。リレー機能により、トランシーバーが3つあればカメラとフラッシュ装置の両方を同時にワイヤレスに制御することができます。

1. V6 ユニットがすべて同じチャンネルに設定されていることを確認します。
2. 携帯用遠隔ユニットとして使用する V6 を TX として、その他のすべての V6 を RX として設定します。

3. V6 RX の 1 つをカメラのホット シューに取り付け、その V6 RX を適切なシャッター リリース ケーブル (別売り) でカメラのシャッター リリース ポートに接続します。その他の V6 RX をフラッシュ装置に接続します。
4. カメラに搭載した V6 RX で、 を押しします。選択ダイヤルを回して <リレー> (<RELAY>) に合わせます。 を押しします。選択ダイヤルを回して <オン> (<ON>) に合わせます。 を押しして確定し、 を押ししてメイン画面に戻ります。メイン画面にリレー モード表示灯の <REL-C> が表示されます。
5. 携帯用の V6 TX 装置で、 を押しします。選択ダイヤルを回して <リレー> (<RELAY>) に合わせます。 を押し、ダイヤルを <オン> (<ON>) に合わせます。 を押し、 を押ししてメイン画面に戻ります。リレー モード表示灯の REL がチャンネル表示灯に切り替わります。





## 14. 高度な使用法

### 14.1




#### 光トリガー

光トリガーは、無線信号の代わりのトリガー機構として機能することができます。例えば、フラッシュ シンクロよりも早く照射されるプリ発光信号を取り込むことは非常に有益です。プリ発光によってトリガーされる光トリガーを遅延タイマー（セクション 14.2 を参照）で設定することにより、フラッシュの正確な発光開始時間を設定できます。

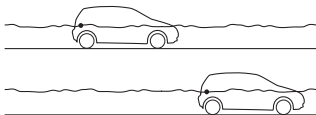
S1 と S2 の 2 つの光トリガー モードから選択できます。

S1:最初のプリ発光、プリ発光がない場合はメインフラッシュでトリガーします。





S2:プリ発光を無視し、メインフラッシュでトリガーします。

1. TX モードまたは RX モードで V6 の電源を入れ、 を押し、選択ダイヤルを回して〈光学スレーブ〉 (〈OPTICAL SLAVE〉) に合わせます。 を押します。
2. 選択ダイヤルを回して S1 または S2 に合わせ、 を押します。
3. V6 RX のメイン画面に光トリガー（セクション 6.2 を参照）の状態が表示されます。



## 14.2

遅延タイ  
マー

すべての V6 には、TX モードまたは RX モードで設定できる遅延タイマーが搭載されています。**遅延タイマーにより、トリガーの応答が設定された時間遅延します。**フラッシュを先幕シンクロよりも少し遅く発光させることで、異なる照明効果を作り出す（後幕シンクロを実現する、など）場合は、1 ミリ秒～10 秒（9,999ms）の範囲で適切な遅延時間を設定します。

1. TX モードまたは RX モードで V6 の電源を入れ、 を押し、選択ダイヤルを回して〈遅延〉（〈DELAY〉）に合わせます。 を押します。
2. ダイヤルを回して〈設定〉（〈SET〉）に合わせ、 を押します。ダイヤルを回して各桁を設定し、 を押して確定し、別の桁に進みます。
3. V6 RX のメイン画面に遅延タイマー（セクション 6.2 を参照）の状態が表示されます。

## 15. V6を自分に合わせてカスタマイズする

V6 のサブメニューで、自分のニーズに合わせてカスタマイズしたさまざまなオプションを設定できます。 を押し、選択ダイヤルを回して〈サブメニュー〉 (〈SUB-MENU〉) に合わせ、 を押しします。選択ダイヤルを再び回すと、カスタマイズしたすべてのオプションをスクロールできます。

---

### 15.1


#### 選択ダイヤルの方向

〈ダイヤル方向〉 (〈DIAL DIRECTION〉) で、V6 の選択ダイヤルの回転方向を〈時計回り〉 (〈CLOCKWISE〉) または〈反時計回り〉 (〈ANTI-CLOCKWISE〉) に設定できます。例えば、メイン画面で出力レベルを上げるには、時計回りの設定では選択ダイヤルを左に回し、反時計回りの設定では選択ダイヤルを右に回す必要があります。

---

### 15.2

#### スワップ制御

V6 TX のメイン画面で、 または押し込み式選択ダイヤルを 1 回押すと下記のどちらかのモードに切り替わります。

- クイック出力調整モード〈クイック出力調整〉 (〈QUICK POWER ADJ〉): 出力調整を1EV ステップに拡大します (セクション 12.1.3 を参照してください)。



- ズーム (カクタス) モード <ズーム (カクタス)> (<ZOOM (CACTUS)>):  
カクタス RF60 (セクション 16.1.1 を参照) のズーム レベルを調整します。

この設定は <スワップ制御> (<SWAP CONTROL>) で行うことができます。

---

### 15.3

#### LCD バック ライト タイマー

、、選択ダイヤル、グループ ボタンを押したり回したりするといつでも V6 の LCD バックライトが点灯します。エネルギーを節約するため、バックライトを自動的に消すタイマー設定があります。<LCD バックライト> (<LCD BACKLIGHT>) で、<オフ> (<OFF>)、<5 秒> (<5 SECS>)、<15 秒> (<15 SECS>)、<常時点灯> (<STAY ON>) から選択します。

---

### 15.4

#### スリープ タイマー

ご使用後に V6 の電源を切るのを忘れた場合は、エネルギーを節約するため、スリープ タイマーにより指定された時間の経過後に V6 がスリープ モードに切り替わります。<スリープ> (<SLEEP>) で、<オフ> (<OFF>)、<15 分> (<15 MINS>)、<60分> (<60 MINS>) から選択します。

V6 をスリープ モードから復帰させるには、任意のボタンを押すか、または選択ダイヤルを 1 回回します。また、ホット シューまたは x シンクロポートからのローカル トリガーでも V6 を復帰させることができます。

**注記:**ワイヤレス トリガーで V6 RX 装置を遠隔操作で復帰させることはできません。

---

## 15.5

### 動作範囲

V6 の動作距離は撮影目的に合わせてカスタマイズできます。〈動作範囲〉 (〈WORKING RANGE〉) で、V6 TX 装置を RX 装置に近接して配置する必要がある場合 (マクロ撮影の場合等) は〈ショート〉 (〈SHORT〉) を選択し、通常のショットの場合には〈ロング〉 (〈LONG〉) を選択します。〈ショート〉 (〈SHORT〉) のオプションでは、V6 の最大有効距離が約 70% 低下しますが、V6 TX 装置と RX 装置を近接した位置に配置することによって生じる干渉を除去できます。

---

## 15.6

### 工場出荷時設定にリセット

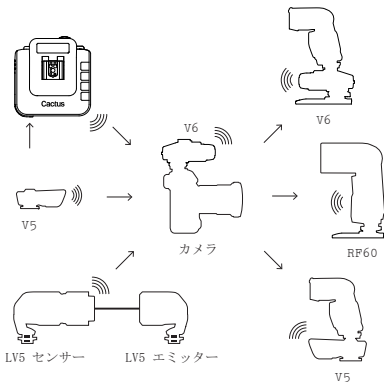
V6 を最初の製造時の設定に復元し、カスタムのフラッシュ プロファイルをすべて消去するには、[工場出荷時設定にリセット] を使用します。〈工場出荷時設定にリセット〉 (〈FACTORY RESET〉) のサブメニューで、 を押し、ダイヤルを回して〈はい〉 (〈YES〉) に合わせます。画面に〈確定?〉 (〈CONFIRM?〉)  を押して確定します。

**注記:**[工場出荷時設定にリセット] により、V6 に保存されたすべてのカスタムのフラッシュ プロファイルが消去されます。

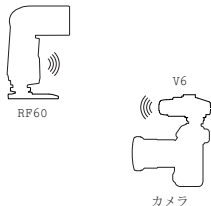


## 16. カクタスギアを取り付けて使用する

V6 トランシーバーは、カクタス ワイヤレス フラッシュ RF60、ワイヤレス フラッシュ トリガー V5、およびレーザー トリガー LV5 と互換性があります。



## 16.1.1 スレーブとしての RF60



カクタス V6 モジュールを内蔵したカクタス RF60 は、V6 TX による遠隔操作とトリガーが可能です。

**注記:**

カクタス V6 では、最大 1/10 EV ステップを指定して RF60 にステップを通信できます。これに対し、RF60 では最も近い 1/3 EV ステップしか表示できません。

- RF60 スレーブの出力レベルを調整するには:
1. V6 と RF60 を同じチャンネルに設定します。
  2. RF60 スレーブに割り当てられたグループを V6 TX で有効にします。

3. V6 RX の場合と同様に各グループの出力レベルを調整します。

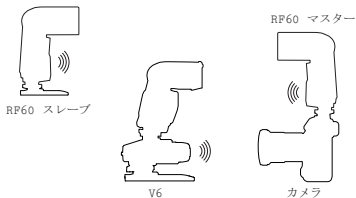
RF60 スレーブのズームレベルを調整するには:

1. スワップ制御をズーム (カクタス) モードに設定します (セクション 15.2 を参照してください)。
2. V6 TX のメイン画面で、**OK** を 1 回押します。有効になっている各グループのズームレベルが画面に表示されます。
3. 出力レベルを調整する場合と同様に各グループのズームレベルを調整します (セクション 12.1 を参照してください)。ズーム調整は、単一グループの調整と複数のグループの調整のどちらにも対応しています。

**注記:** V6 TX で設定したズームレベルで V6 RX のフラッシュのズームレベルを調整することはできません。

また、RF60 をその他の V6 対応 TTL フラッシュと組み合わせることにより、遠隔フラッシュ制御システムを構築することもできます。例えば、RF60 をグループ A に、キヤノンの 580EX II (V6 RX を搭載) をグループ B に、ニコンの SB-900 (別の V6 RX を搭載) をグループ C に割り当てます。V6 TX で全グループをトリガーし、各グループの出力レベルを相対出力モードまたは絶対出力モードで設定できます。

## 16.1.2 マスターとしてのRF60



RF60 をマスターとしてカメラのホット シューに割り当て、このRF60 に他の RF60 スレーブや V6 RX 装置をトリガーさせたり操作させたりすることができます。RF60 マスターで RF60 スレーブの出力レベルやズーム レベルを調整することができますが、V6 RX 装置を取り付けて使用する場合はズーム調整に対応していません。

---

**16.2**

---

**V5 と LV5**

カクタス V6 トランシーバーはカクタス V5 または LV5 と対になって動作し、グループ制御がなくてもワイヤレス トリガーができます。いずれも同じ 2.4GHz、16 チャンネルのプラットフォームに対応しています。

V5 と LV5 はグループ制御と遠隔出力調整に対応していないため、V6 TX では有効と判断するグループにかかわらず、すべての V5 をトリガーするようになっています。同様に、V5 と LV5 のどちらでも、V6 RX が割り当てられているグループにかかわらず、すべての V6 RX をトリガーします。

## 17. LED 信号ガイド

状態	TX 側表示灯	RX 側表示灯
フラッシュのトリガー	緑	
シャッターのトリガー	緑	
オートフォーカスを半押し	オレンジ色	
出力レベルコマンドを受信しました	なし	オレンジ色
バルブ モードの起動	緑 (2 秒)	
バルブ モードの停止	緑	
バッテリー低下	赤 (3 秒ごと)	
ファームウェア更新モード	赤 (0.5 秒ごと)	

## 18. USB 接続

V6 トランシーバーには、USB 外部電源の提供とファームウェア更新の 2 つの目的に使うミニ USB ポートが搭載されています。

---

### 18.1

#### USB 外部 電源

また、カクタス V6 は、単三電池のほか、5V DC、500～1,000mA の USB 外部電源デバイスでも動作します。お使いの USB 電源デバイスの仕様を調べて、V6 トランシーバーに適合しているかどうか確認してください。

**注記:** USB 外部電源で V6 電池収納部内の充電電池を充電することはできません。

---


### 18.2

#### ファーム ウェア 更新

カクタスは V6 用の新しいファームウェアを随時リリースします。USB 接続からお使いの V6 を更新してください。

**V6 のファームウェア バージョンを調べるには、**  
**A** と **D** を押しながら、同時に TX モードまたは RX モードで V6 の電源を入れます。LCD 表示に、ユニットにインストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。ボタンを離すと、3 秒後に LCD 表示がメイン画面に戻ります。

ファームウェアの更新が利用できるときに**ファームウェアの更新を実行するには:**

1. V6 の電源を切り、ユニット内にある電池を取り外します。
2. カクタス ミニ USB ケーブル MU-1 (別売り) で V6 をコンピュータに接続します。
3.  を押しながら、同時に TX モードまたは RX モードで V6 の電源を入れます。
4. これで V6 がファームウェア更新モードになりました。状態 LED が急速に赤点滅します。ファームウェア更新プログラムが接続されている V6 を認識し、アップグレードを開始します。

詳細については、[www.cactus-image.com/v6.html](http://www.cactus-image.com/v6.html) をご覧ください。

ファームウェア更新は Microsoft Windows のプラットフォームでのみ動作します。Mac OS には対応していません。



## 19. 別売りの付属品

1. ワイヤレス フラッシュ RF60
2. レーザー トリガー LV5
3. シャッター リリース ケーブル  
(カクタス シャッター ケーブルは、キヤノン、ライカ、ミノルタ、ニコン、オリンパス、パナソニック、ペンタックス、サムソン、ソニー各社製のほとんどのカメラモデルでご利用いただけます。対象モデルについては、弊社ホームページをご覧ください。)
4. シンクロ ケーブルとアダプタ
  - PC シンクロ ケーブル CA-200
  - 3.5mm プラグ ケーブル、6.35mm プラグ アダプタ付き CA-360
5. USB から ミニ USB へのケーブル MU-1
6. ランヤード CL-1

## 20. トラブルシューティング

このセクションをお読みいただく前に、カクタス V6 トランシーバーが（本マニュアルのセクション 8~14 の説明にしたがって）正しくセットアップされていることを確認してください。トラブルシューティングの手順を実行した後も不具合が解決されない場合は、お買い上げいただいた販売店まで直接お問い合わせください。

### 1. 誤ったフラッシュ出力が発光する

LCD 表示	考えられる原因	解決策
RX に誤った出力レベルが表示される	RX のフラッシュ出力を制御している TX が複数ある	<ul style="list-style-type: none"> <li>- セットアップで必ず TX を 1 つだけ使用します</li> <li>- トランシーバーをすべて別のチャンネルに設定します</li> </ul>
RX に正しい出力レベルが表示される	1. 選択したフラッシュ プロファイルがフラッシュモデルに一致していない	正しいフラッシュ プロファイルを選択するか、または新しいフラッシュ プロファイルを学習します
	2. フラッシュが誤った動作モード (M モード等) になっている	フラッシュを確認し、フラッシュを TTL モードに設定します
	3. 誤った EV オフセットが絶対出力モードで設定されている	問題となっているグループの EV オフセットを確認してリセットします

## 2. フラッシュ プロファイルの学習に失敗する

LCD 表示	考えられる原因	解決策
フラッシュ学習時に LCD にエラーメッセージが表示される	1. フラッシュモデルに対応していない	セクション 7.1.3 で、フラッシュモデルがフラッシュプロファイル学習に適合しているかどうか確認してください
	2. フラッシュの電源である電池が消耗しており、フラッシュから生み出される出力が不安定である	フラッシュの電池を交換します
	3. 壁と V6 の距離が近すぎるか、または遠すぎる	- V6 とフラッシュを白色の壁から 1 メートル離れて面した状態で配置します - ライト スタンドまたは三脚を使って V6 の位置を固定します
	4. 現場周辺の環境光が強すぎるか、または不安定である	弱く安定した環境光が得られる閉鎖された空間でフラッシュ学習を実行してください

### 3. フラッシュが誤って発光する（予期しないフラッシュ発光が起きる）

LED が点滅しているか？	考えられる原因	解決策
TX:いいえ RX:いいえ	ホット シューの状態不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ホット シューの接触の締め具合を調整します</li> <li>- V6 のホット シューの接触面を清潔な布で清掃します</li> </ul>
TX:いいえ RX:はい (緑)	1. バックグラウンド無線干渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 両方のトランシーバーを別のチャンネルに設定します</li> <li>- 近くにある別の機器から干渉が発生している可能性があるため、セットアップする場所を変更します</li> </ul>
	2. TX と RX のトランシーバーの位置が互いに近すぎる	動作範囲サブメニューで〈ショート〉(〈SHORT〉)を選択します
	3. 光トリガーの電源が入り、光トリガーが予期しない環境光によってトリガーされた	光トリガーはこの環境で動作しない可能性があるため、光トリガーの電源を切ります

## 4. シンクロが遅い（フラッシュが遅れる）

LED が点滅しているか？	考えられる原因	解決策
TX:はい (緑) RX:はい (緑)	1. シャッター速度がカメラの x シンクロ制限よりも速い	カメラのシャッター速度を対応する最大 x シンクロ速度に調整します
	2. 遅延タイマーが設定されている	遅延タイマーをオフにするか、または遅延タイマーを正しいシンクロ時間に調整します
TX または RX:はい (3秒ごとに赤)	3. 電池の電力不足	電池を交換してやり直します

## 5. フラッシュがトリガーされない、またはシャッターがリリースされない

LED が点滅しているか？	考えられる原因	解決策
TX:いいえ RX:いいえ	1. TX 側の電池の接触不良、または電池の電力不足	TX 側の電池を交換してやり直します
	2. ホットシューの状態不良	- ホットシューの接触の締め具合を調整します - V6 のホットシューの接触面を清潔な布で清掃します

LED が点滅しているか？	考えられる原因	解決策
TX:はい (緑) RX:いいえ	1. RX 側の電池の接触不良、または電池の電気切れ	RX 側の電池を交換してやり直します
	2. チャンネルとグループが一致していない	両方のトランシーバーが同じチャンネルに設定されており、RX に割り当てられたグループが TX で有効になっていることを確認します
	3. バックグラウンド無線干渉	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 両方のトランシーバーを別のチャンネルに設定します</li> <li>- 近くにある別の機器から干渉が発生している可能性があるため、セットアップする場所を変更します</li> </ul>
	4. 100m の有効範囲を超えている	TX と RX のトランシーバーを互いから 100m (328 フィート) 以内に配置してください
	5. TX と RX のトランシーバーの位置が互いに近すぎる	動作範囲サブメニューで〈ショート〉(〈SHORT〉)を選択します

LED が点滅しているか？	考えられる原因	解決策
TX:はい (緑) RX:はい (緑)	1. ホット シューの接触不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ホット シューの接触の締め具合を調整します</li> <li>- V6 のホット シューの接触面を清潔な布で清掃します</li> </ul>
	2. 使用しているフラッシュが V6 に適合していない	使用しているフラッシュが V6 に適合しているかどうか確認します (セクション 7.1 を参照してください)
	3. ケーブルの接続不良	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ケーブルの接続を確認します</li> <li>- ケーブルを交換します</li> </ul>
	4. 誤ったケーブルを使用している (V6 をワイヤレス シャッターリリースとして使用する場合のみ)	適切なシャッター リリースケーブルが使用されていることを確認します

## 21. ご注意

---

### 米国にお住まいのお客様へのご注意

連邦通信委員会 (FCC)  
無線周波数干渉基準書。

この機器は FCC 規則第 15 部に基づいて試験され、クラス B デジタル装置の制限に適合することが確認されています。この制限は、住宅設備で発生する有害な干渉に対する合理的な保護を提供するために設計されています。

この機器は無線周波数エネルギーを発生させ、使用し、放射することができるため、取扱説明書にしたがって設置と使用を行わなかった場合、この機器が原因となって無線通信に対する有害な干渉が発生する可能性があります。

ただし、特定の設備で干渉が発生しないという保証はありません。

この機器が原因となって無線またはテレビの受信に有害な干渉が発生した場合は（機器の電源を切ってから電源を入れ直すことによって判定することができます）、下記の対策をとることによって干渉を解消してみることをお勧めします。



受信アンテナの方向を変えたり設置場所を変えたりします。

機器と受信機の距離を広げます。

受信機が接続されている回路とは別の回路にあるコンセントに機器を接続します。

販売店、または経験を有する無線/テレビ技術者に相談します。

Harvest One Limited ならびにこのワイヤレスフラッシュ トランシーバーの製造者は、この機器を許可なく改造したことが原因となって発生する無線またはテレビへのあらゆる干渉に関して責任を負いません。そのような改造を行った場合、この機器を使用するユーザーの権限が無効となる可能性があります。



FCC ID:VAAWFTV6

中国製

この機器は FCC 規則第 15 部に適合していません。この機器の操作する場合は、次の 2 つの条件を満たすものとします。(1) この機器から有害な干渉を発生させてはなりません。(2) この機器では、好ましくない動作が引き起こされる原因となる干渉を含む、受信したあらゆる干渉を受け入れる必要があります。

## R&TTE 適合性宣言 (DOC)

私たち Harvest One Limited (9D On Shing Industrial Building, 2-16 Wo Liu Hang Road, Fo Tan, Hong Kong) は、私たち自身の責任に基づき、本製品「カクタス ワイヤレスフラッシュ トランシーバー V6」がR&TTE 指令 (1999/5/EC) の必須要件およびその他の関連要件に適合していることを宣言します。



本製品、カクタス ワイヤレス フラッシュ トランシーバー V6 は EU 理事会指令 1999/5/EC の規定に適合しています。



バツ印が付けられた車輪付き容器は、ヨーロッパ連合の域内ではこの製品が製品サイクルの終了時に別途処分されなければならないことを意味します。この製品を他の自治体指定廃棄物と一緒に処分しないでください。

## 22. 保証

---

下記に定める制限付き保証は、この制限付き保証によってお買い上げいただいたカクタス ブランドのワイヤレス フラッシュ トランシーバーに関して Harvest One Limited が世界中で提供するものです。

お使いのカクタス ワイヤレス フラッシュ トランシーバーもしくはその他の内容物は、最初の包装箱に入れて新しい状態でお客様に引き渡された場合、次の通り、材質または仕上がりの瑕疵に対して保証されます。最初にお買い上げいただいた日から 1 年間、弊社の正規販売代理店に返送され（該当する場合）、検査の結果、瑕疵があると証明された、瑕疵のある部品または瑕疵のあるワイヤレス フラッシュ トランシーバーは、Harvest One Limited または正規販売代理店の決定するところにより、新しい部品または作り直した同等の部品を使って修理し、または新しいワイヤレス フラッシュ トランシーバーと交換するものとします。

この制限付き保証は、ワイヤレス フラッシュ トランシーバーを適合するカメラおよびフラッシュ装置と一緒に使用した場合にのみ適用されるも

のとします。カメラおよびフラッシュ装置について Harvest One Limited は一切責任を負いません。

この制限付き保証は、ワイヤレス フラッシュ トランシーバーの通常の使用において生じたあらゆる瑕疵を対象としますが、下記の場合においては適用されません。

- (a) お客様による不正使用、誤った取扱い、不適切な包装、改変、事故、電流変動によるワイヤレス フラッシュ トランシーバーの喪失または損傷。
- (b) カクタスのユーザー マニュアルに定める操作、保守、または環境に関する手順を順守しなかった場合。
- (c) Harvest One Limited または正規販売代理店以外の者が実施したサービスを受けた場合。
- (d) 上記の規定を損なうことなく、水害、砂/腐食による損傷、電池の漏洩、トランシーバーを落下させること、擦り傷、摩耗、本体の破損、ホット シューまたは PC ケーブルの破損は、誤使用、不正使用、または取扱説明書に定めるところにしたがってワイヤレス フラッシュ トランシーバーを使用しなかったことの結果として生じたものと推定します。

上記に記載する明示的な制限付き保証の適用期間の経過後は、商品性もしくは特定目的との適合性の黙示的な保証を含むいかなる黙示的な保証もワイヤレス フラッシュ トランシーバーに適用されず、また、上記に記載する保証を除き、ワイヤレス フラッシュ トランシーバーに関してあらゆる人物もしくは企業が与えるその他いかなる明示的な保証も担保も Harvest One Limited に対して拘束力を有しないものとします。Harvest One Limited は、収益または利益の喪失、不便、代替の設備もしくはサービスの費用、保管費用、データの喪失または破損、またはワイヤレス フラッシュ トランシーバーの使用、誤使用、または使用することができないことが原因となって生じるその他の特別損害賠償、付随的損害賠償、または派生的損害賠償について、その申立てが準拠する法律理論の如何にかかわらず、また Harvest One Limited がかかる損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、一切責任を負わないものとします。いかなる場合も、Harvest One Limited に対して行われるあらゆる種類の回復は、Harvest One Limited もしくはその正規販売代理店が販売したカクタス ワイヤレス フラッシュ トランシーバーの購入価格の金額を超えないものとし、また、損害の申立てを生じさせないものとします。上記の規定を損なうことなく、お客様はカクタス ワイヤレス フラッシュ トランシーバーの使用、誤使用、または使用することができ

ないことによって生じる、お客様またはお客様の財産もしくは他者または他者の財産の損失、損傷、または傷害であって、Harvest One Limited の過失が直接の原因でないものについて、あらゆるリスクと責任を負います。この制限付き保証は、Harvest One Limited の最初のご購入者、または購入された Harvest One Limited を贈答品として送られた人物以外の人には適用されず、お客様の独占的な救済策を定めるものです。

---

## 本社:

HARVEST ONE LIMITED  
9D ON SHING IND. BLDG.,  
2-16 WO LIU HANG ROAD,  
FO TAN, HONG KONG

カスタマー サービスについては、お住まいの地域の販売店までお問い合わせください。

© HARVEST ONE LTD. 2014

このマニュアルは日本語に翻訳されています。日本語版は英語版と不一致が発生する場合は、英語版を優先にして参照してください



# cactus

[www.cactus-image.com](http://www.cactus-image.com)